

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

AA 研共同利用・共同研究課題「ユーラシア諸言語における談話の文法」(jrp000296)
令和 6 (2024) 年度第 2 回研究会

日時: 令和 6 (2024) 年 12 月 7 日 (土曜日)

午前 11:00～午後 7:30

場 所: 東京外国語大学本郷サテライト 3 階セミナールーム+Zoom (ハイブリッド)

11:00-12:00. 課題打ち合わせ (1)

13:00-14:30. プロコピエヴァ マリア (AA 研共同研究員, AA 研ジュニアフェロー)

「現代サハ語の同意表現—ahaa, eex, ee を中心に—」

14:40-16:10. 江畑冬生 (AA 研共同研究員, 新潟大学) 「サハ語の多回接辞(iterative)
の多機能性:同系言語・周辺言語との対照から」

16:20-17:00. 全員 総合討論

17:15-19:30. 課題打ち合わせ (2)

今回の研究会では、2 件の研究発表と討論、および課題遂行のための打ち合わせを行った。海外在住の共同研究員の時差を考慮し、打ち合わせは午前と午後の 2 回に分けて行った。

プロコピエヴァ マリア (AA 研共同研究員, AA 研ジュニアフェロー) 「現代サハ語の同意表現—ahaa, eex, ee を中心に—」

本発表では、現代サハ語の話し言葉における同意を表す 3 種の表現 ahaa, eex, ee について、Yes-No 疑問文に対する応答として機能する際の相違を中心に予備的な考察が行われた。本研究で扱った 3 種の表現は、先行研究では文語／口語という異なる位相で用いられること、ahaa についてはロシア語からの借用であるほか、ee についてもロシア語の影響がみられることが指摘されていることから、本研究ではサハ語を中心に他のチュルク諸語についてもロシア語の影響という観点から間投詞の機能の予備的考

察が行われた。そして結論として、ロシア語から借用語された同意表現がもとのロシア語の同意表現との間で共通していないことが示された。

江畑冬生（AA 研共同研究員，新潟大学）「サハ語の多回接辞(iterative) の多機能性:同系言語・周辺言語との対照から」

本発表では、サハ語の多回接辞（iterative）の多機能性について扱った。サハ語の多回接辞は主語の単複、目的語の有無と単複、否定接辞の有無、動詞の語彙的意味などに関わっており、単に「複数回の動作」を表すと捉えるのは適切とは言えない。多回接辞の多様な意味は、同系言語との対照からもサハ語多回接辞の多機能性は際立っており、むしろ近隣の異系統の言語に見られる意味拡張志向に共通する点があることが示された。

今回の研究会ではサハ語に関する 2 件の発表が行われた。間投詞、多回接辞という異なる文法要素についてチュルク諸語内での多様性と周辺言語の影響という共通したキーワードが提示され、質疑ではサハ語話者・サハ語研究者による言語現象の検討や、課題のメンバーが専門とするチュルク諸語での異同について母語話者・研究者による活発な討論が行われた。

以 上